

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ボラティリティー	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.490	△RG	0.050	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ボラティリティー

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

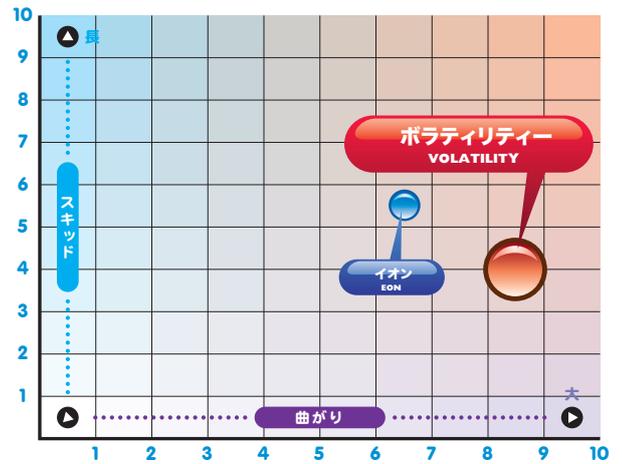
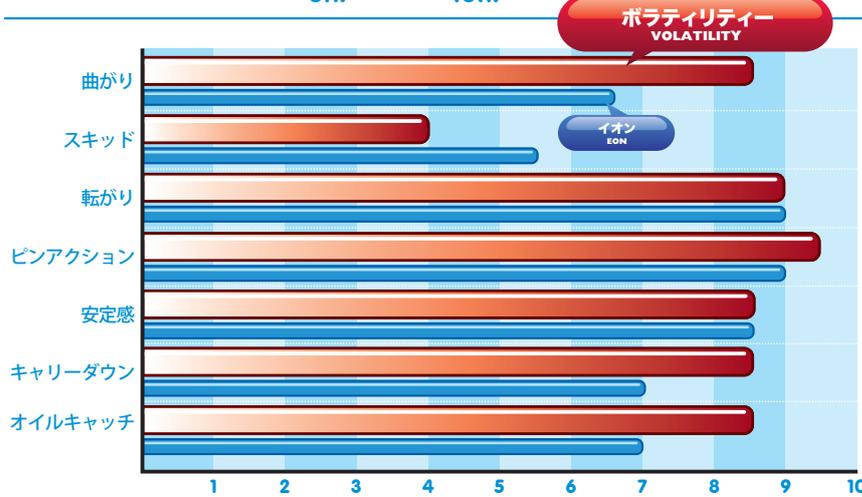
比較対照ボール：イオン

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



ボールの評価

S20からS86カバーストックまで幅広い領域を手掛ける900Global社。今回のVOLATILITYはその中でも最大値でもあるS86のHybrid、そして新型のVolatility Asymmetric Coreを搭載しています。S86と言えば以前発売したINCEPTION DCTと同等ですが、今回はそのHybridバージョン。エネルギーを中盤から後半までしっかりリアクションとして表せるように、カバーの強さから表面仕上げまで数多くの検証をへて生まれました。

テストドライブの検証結果は、山本勲プロと和田秀和プロはストロングアーク、私は中盤から後半にかけて強い立ち上がりを感じました。それは前者の二人は私より手前のからの転がりが強く、回転数も私よりあるのだと思います。

そのため強いカバーで起き上がりが早く始まり、ピンヒットまでコアの軸移動を保つことが難しかったのではないかと思います。私の場合は二人より回転の入り甘いだけ奥にエネルギーが残り、曲がりが出ているという事なのでしょう。

日本人のほぼ大半が私ぐらいが平均になると思うので、皆さんでもレーンの中盤から後半に強い曲がり得られると思います。このようなボールの性能は、バックエンドに俊敏な反応を求めるイメージよりもオイルの濃淡の際を攻めるのが有効に働くように感じます。強いカバーの使い道は、中目ややタイトにオイルを使うことも視野に、パターン化しているラインアジャストに変化をもたらす役目もあると思います。出し戻しのラインがイメージが湧かないときはオイルを長めに使い、タイトなラインを引くとういうボールの用途が広がります。スピードが速めの方や中盤から後半まで動きの強いボールを探している方、タイトなライン取りを攻めの中心に持たれている方は十二分にVOLATILITYの性能を活かせると思います。

特記事項

900Global最強のカバーでレーンの中盤から後半にかけて強いネジれを感じると思います。派手な動きこそしませんが実用性の高いボールです。